

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 11日

【評価実施概要】

事業所番号	0174700914		
法人名	特定非営利活動法人 りくべつエヌ・ピー・オー優愛館		
事業所名	グループホームゆうの里		
所在地	〒089-4311 足寄郡陸別町字陸別東1条4丁目1番地 (電 話) 0156-27-2500		
評価機関名	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年2月19日	評価確定日	平成21年5月11日

【情報提供票より】(平成21年 1月 26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 ・平成 17年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	人
職員数	16 人	常勤 4人, 非常勤 12人, 常勤換算	4.65人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000～66,000 円	その他の経費(月額)	15,000～17,000 円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 850 円		

(4) 利用者の概要 (1 月 26日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護 1	3 名	要介護 2	1 名
要介護 3	3 名	要介護 4	1 名
要介護 5		要支援 2	1 名
年齢	平均 85.6 歳	最低 77 歳	最高 101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	陸別町国民健康保険診療所 陸別歯科診療所
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は町の中心部、町役場や公民館、保健センターに隣接し、同一敷地内には母体NPO法人で運営委託を受けている別棟の高齢住居やデイサービスセンターがあり、当事業所と併せ町内近隣での介護の大きな担い手として存在感は強い。建物はゆったりとした平屋で、居間や居室も落ち着いた作りであり、明るい廊下の数ヶ所は、椅子等の工夫をし、個々に気を配った思いが見て取れる配置となっている。平成17年の開設当初から2人体制で宿直を行っており、職員の負担軽減がケアの質向上となるという方針は利用者の笑顔と帰結し、職員の自信となっている。今後も利用者の笑い声が絶えないケアを目指した取り組みに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善事項はない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	理事長が中心となり問題点や疑問点を提起している職員の意見を集約し、管理者と主任で整理するなどして自己評価に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議について、町内会の出席を依頼をしているが、何らの返答もなく開催にいたっていない。町内会の出席は地域活動として必要だが絶対不可欠でもなく、現状として、参画可能な関係者による運営推進会議の開催も必要であると思われる。地区の民生委員や老人クラブ、消防署・団、地域の学校関係者、地域包括センターや保健師等の協力により地域推進会議を開催し、地域間における連携関係の実績を培う取り組みを大いに期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	苦情や意見については、受付から処理までの体制を掲示しており、また日々の生活を「お便り」の発行として続けるなど、開かれた事業所として運営している。今後は、「お便り」の定期発行や事業所独自のアンケート、意見箱の設置などより多くの思いや考え方の聴取に取り組むよう期待したい。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会への加入は、現在お願いしている最中である。しかし町の行事への積極的な参加や小中高のボランティア受け入れ等、地域に根ざした取り組みを日夜実践している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	町の老人福祉の要として地域密着型サービスを指向しており、その実現のために理念である「尊厳を守り、楽しく安心した暮らし」を取り組み実行している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、朝の引継ぎ後に職員と利用者で唱和し、常に体感できるように意識することで、ケア向上になるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への加入はできていないが、町内での祭りやイベントには参加している。また小中学生のボランティアの受け入れも積極的に行い、開かれた事業所へと取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価についての意義は十分に理解しており、全職員が自己評価に参加し問題化できるように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会が未加入のため、開催には至っていない。	○	平成17年の開設であり、運営推進会議の開催は急務といえる。すでに小中学生の受け入れや町内イベントへの積極的な参加等を行ってっており、地域活動は確実に浸透している。町内会に固執することなく、関係部門の参加による運営推進会議の早急な開催に期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当部局とは気軽に相談できる関係にある。町の介護予防教室の開催も任されており、年3回の頻度で開催している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ホーム便り」を発行し、利用者の日常生活をより多く伝える取り組みをしている。また利用料を持参してもらうなど、家族と接する機会に工夫を凝らす支援に取り組んでいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見等の取り扱い体制を居間や玄関に掲示し、受け入れの姿勢を示している。また家族会もあり、意見の聴取や汲み取りに積極的に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動についてはしない方針で臨んでいるが、新たに職員を採用した場合は、研修や実習を通じて、利用者と馴染むための配慮を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講演会（管内、札幌、社内等）への参加を通じてケア向上に取り組んでいる。特に月一回の社内研修では2人の問題提起者を設定し、意欲的に研修内容を深める実践を行って効果を上げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管内のグループホーム協議会に参加し、相互に意見交換や情報の共有を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験などを通して徐々にホームやサービスに馴染む様に支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者本人には食器洗いや廊下の掃除、花畑の草取り等能力や意欲に応じて手伝い、職員と相互に助け合いながら、普通の生活を送れるように支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様々な機会を利用して本人の意向を把握し、一方的な事態にならないように配慮し気をつけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員一人ひとりが話し合い、本人本位のプランとなるような支援に取り組んでいる。基本は多くの目標を掲げず、無理のないプランになるよう心がけている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランは3ヶ月に一度見直しをしている。変更がある場合は必ず家族に説明し、同意を得ているプランとなっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の受診や随時の入浴、多岐にわたる相談、他の福祉部門との交流等、状況に応じた対応で支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診について、基本的には家族での対応であるが、事業所で即応する事もある。往診がない医療体制のため、日ごろからの信頼関係を重視した取り組みに配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについて、事業所としては積極的に取り組みたいが、医療カバーができないため、論議も不十分である。また特別養護老人ホームとの介護の住み分けがとできており、重篤化した場合は入所が一般的となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の名前が推測される書類や個人台帳は、事務所の書棚で管理しており、プライバシーの管理や心配りに配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の希望や好みに沿って生活を楽しむように支援し、職員の都合にならないように注意をしながら取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳と下膳、食器洗いや茶碗拭き等、その人の個性や能力に見合った協力を得ながら、食事を楽しむ取り組みをしている。	○	能力活用的手段として、食材を切る・洗う・盛り付けるなどの調理の一過程を利用者が積極的に担うような、取り組みを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は「楽しむ入浴」と「介助しやすい浴室」の両方を兼ね備えた工夫のある造りになっている。高齢者に無理のない浴槽を用い、両側からも介助できる造りは、いつまでも楽しめる入浴を意図しており、この事業所のケアの基礎となっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	モップ掛けや洗濯物のたたみと干し、配膳と下膳、食器洗いや拭き等、以前より日常的に行ってきた事を毎日の生活に取り入れ、役割と楽しみを持てるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場は事業所周辺の公園、公民館、役場等の散策を行い、町のイベント、山菜摘みなどの希望に沿った外出支援を行っている。	○	冬季、この地域では寒さのため外出する習慣が少ないが、事業所での買出し時の同行等、外出の機会を増やす取り組みを期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行っておらず、夜間のみ防犯上の理由から鍵をかけている。鍵や拘束の問題点を十分に理解し、ケアに活かしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年に一度災害訓練を実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は日に1300ccを目安にし、記録をとり達成できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や居間はフローリング仕上げで、開放感のあるスペースとなっているため、居心地が良く、ほぼ全員が日中を居間で過ごしている。また利用者と職員はスリッパ等の上履きを使用せずに素足か靴下、内履き等で利用している。そのためナースシューズ等による作業靴での居室入室やスリッパの使用の違和感もなく、親しみと好感のもてる生活風景である。廊下の隅に椅子を置き、2～3人がちょっとした会話を楽しめる工夫がみられ、気の合った人たちの憩いの場となっている。清掃や衛生面で多大の気配りを必要とする上履き不要の取り組みを積極的に行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には好みの小物類や親しんだ家具が持ち込まれており、その人に合った生活空間となっている。		

※  は、重点項目。